<table>
<thead>
<tr>
<th>タイトル</th>
<th>ハタンバートル・マクサルジャブ：モンゴル独立運動指導者の一つの典型</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>田中克彦</td>
</tr>
<tr>
<td>出版</td>
<td>一橋論叢: 57(6): 749-769</td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>Type: Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/2741">http://doi.org/10.15057/2741</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
モンゴルをはじめ、モンゴル諸族を統合し、チンギス・ハーン帝国の再建をさけんでモンゴル人の歴史を引き、
モンゴルの配下、アラマン・セミョーノフが鈴木少佐
と共謀して、ジャライット出身のネイジェ・トノンを首班と
モンゴル諸族統一に立つモンゴル国家の建設案を
提出したのもこの時期である。

独立への、このような様々な白いの中で、ゲンパル
シェフスキーやチュヴァンコなどのロシア人を通じて華
命思想にふれ、一貫して社会主義への路線を歩んだスヘ
パル体制下、モンゴル民族を救って今日あらしめたこと、公式の歴史記述
が説いている。そのこと自体は誤りではなく、妥当である
ろう。しかし、この期のモンゴル民族の抵抗運動、その
軍事活動が何にさえられたどのように指導され、また
のような人物が指導したのか、この具体的なイメージは必ずしも明確な輪郭をと
来ない。一歩進歩、完全に異なっていたら、今日のアメリカ・インデ
州真実の如き技術に至ったわけであった。（かつてのモン
ス・ハーンの評価をめぐる問題をあげておこう。）

いずれにせよ、歴史家には、このような困難を課題に
し、もしそれが HDF 史実であるなら、ものにどう
べきなのか、もしその史実が何かあるなら、モン
博士論文の内容、モンゴル人類の問題である。

次に、著者が本の

環境に加わった二百名越えるバルタザ兵士のメモ
を収めた『モンゴル兵役史の回想』と題する八
ページに及ぶ大作であり、ロシア反革命軍、中国軍と
の戦闘に加わった二百名越えるバルタザ兵士のメモ
を収めた『モンゴル兵役史の回想』と題する八
ページに及ぶ大作であり、ロシア反革命軍、中国軍と
の戦闘に加わった二百名越えるバルタザ兵士のメモ
を収めた『モンゴル兵役史の回想』と題する八
ページに及ぶ大作であり、ロシア反革命軍、中国軍と
の戦闘に加わった二百名越えるバルタザ兵士のメモ
を収めた『モンゴル兵役史の回想』と題する八
マンガによるカルテット・マグサルジャブ

(69) ハタンバートル・マグサルジャブ

回想には、党関係者をはじめ、その親族に至る一〇五名の思い出が収められている。

これらの記録は、個々の体験をつづじ合わせることなく、実在に報告することを目としており、それを読む者はあたかもフィルムの一シーンを目の前にするような強烈な感情に動かされるのである。それに対して「歴史小説」とも知り得べき一連の現代文学の諸作品が現われている。これらの作品がいわゆる現代日本の世界文学観からみても、「世界文学」の世界にはこの場合詐称である。文学と同様に、文学をもたれることは、史実の、つまり民族の歴史的体験への執拗な反響が「文学」をするかのように、作家の意欲をさかってやまない時代である。以下において筆者は、このようにたたたむ回想の記録を、『歴史小説』において、民族としての歴史の体験を、登場人物を通じて追体験しようという作家の興味ある期を示であろう。しかしながら、民族としての歴史の体験を、登場人物を通じて追体験しようという作家の興味ある期を示であろう。
マッサルジャンが、その大草原を巡る人々から、学んだ教訓を語りつける。彼は、彼の家が、モンゴルの名を冠する部族の一つだったことを誇りに思っており、彼の教訓は、その部族の歴史を伝えるものであった。彼は、彼の教訓を通じて、人々に、勇敢で、尊敬すべき人物であることを教えることを求めた。

彼の教訓は、彼の人生を象徴し、彼の部族の歴史を語りつけるものであった。彼の教訓は、彼の部族が、モンゴルの名を冠する部族の一つだったことを誇りに思っていた。彼の教訓は、彼の部族の歴史を伝えるものであった。彼は、彼の教訓を通じて、人々に、勇敢で、尊敬すべき人物であることを教えることを求めた。
三

ウランゲルによって戴放されたマクサルジャブは、西
方における自衛軍を支援して、中国軍に当べて出発す
る逆にウランゲル配下のロリアン軍を一網打尽にして、
自衛軍に致命的な打撃を与えた。独自の連合運動指導者の例
を引き、マクサルジャブが漢人対ロシア人という二者
択一のさまで後者をとったことは説明を要しない。し
かしそれが自衛軍への逆襲に移るまでには飛躍がある。

シレンデプは一西部諸地域鎖釈という口実でウランゲル
によってクリムからウランゲルジャブは、自分のも部の走り出
すに至った经过は説明としておらず、後者は人民革命党
の連絡を確認しているが、ややあり、そこに至った事態
の説明がない。シレンデプはかかれはジングジャ
と中国に対する闘争を起こすとしてそれに合流し、西
北方のロシア自衛軍との闘争とその武装解除に指導的
な役割をはたした。と述べ、政治状況の変化に伴って
起きたマクサルジャブの道路の変更を示唆しながらも、
この「合流」がいかにして起こりえたかについては説得
するに至らない。
（73）ハタンバートドル・マクサルッシャ

じた命乞いをした。

文学において、事件のこのよう

ての素材は、伝承にまで

るため、マクサルッシャの下に

て、作家の解釈にとどくもの

でであろうか。

すでに引いたメモリールの中には、一九二一年のこの

闘いに、マクサルッシャが登場する。まるでフラグメントとして語られる。比較的ま

た、この時代における民族のたたかいの口

を時として、文学作品にまざる強烈なイメージをもって

伝えている。

ハタンバートドル・マクサルッシャは、背を低めた

が、肥えていた。陽やかに闘いの

に、茶色のチェッタ・ラッシの上衣を着てい

事態の推移が念に入ると考えられ

て、印象の強い記憶さえできたことであっ

る。これに兵

士の回想の一つ一つが、ドロイダンの小説の記述によ

る伴奏していることは、次のように回想の各部分を接続

させることによってわかる。

「当時ハタンバートドル軍及びワンダンノフ両軍の兵

は、ウィラスタイに再集しており、兵士らは毎晩、

ガッダ・ヘというお経を読んでいた」。
マクサルジャの行動をとるなら、私たちは全軍の戦闘力を最大限に活用する必要がある。マクサルジャの戦略を理解し、それを活用することで、戦局を制圧することが可能である。

馬を駆け抜ける瞬間、敵の陣営に突入する。その速度と姿勢は、敵の兵士たちを混乱させ、彼らの士気を落とす。

私たちの軍隊は、戦略をもとに行動し、敵の弱点を突くことに成功した。これは、我々の勝利の確率を高め、戦局を制圧するのに役立つ。

四日間の激しい戦闘で、我々の軍隊は優位に立つことができた。しかし、戦局はまだ厳しいものがある。敵は、我々の弱点を突くことに挑戦している。私たちは、戦略をもとに行動し、戦局を制圧するため、さらに努力を続けていく必要がある。
逃げ行くワンダーノフの行の逮捕と、ワンダーノフの処刑の小説に対する場面は、はるかに詳しや知ることがで
きる。とりわけ、追手となっているワンダーノフを逮捕した当
事者の兵士たちは、その顔をこところかに語ってい
る。
一九一一年九歳のとき、私は志願してハタンバ
ートル・マクサルジャブの軍に入った。一九一一年七月の
中頃、かすは私に、ウィリアスタイから逃走したワンダーノフ
をつかまえて来るべく任務を与えられた。この任を帯びて、
われに同志らは捜索のため、ウィリアスタイ南方のガンツ峰
という所まで行って家々に聞き込みを行なっているう
ち、ツァガーン・ボラックというところに数人の人たちが
通って行ったのだが、その中にシンガ族の者が居ると
いう話を聞いた。追跡を続け、ホシーチ・ペイセの役
人、ダムディンスレンにこのことをたずねると、連中は
から、黄色い絹の僧衣を買っていた着者、クッロン行
員が全部で五人だったが、ウルトンに着いて、馬を換える
ために除き、そこをとり押さえようと打合せた。［ダ
ムバは束ともしき強い人だったので、かれがワンダーノフを後か
到着したので、予め打合せた通りに、ワンダーノフは
例のダムバが、そのつれは他の連中が捕えたのである。
ちについていることをした。ほどなく日没前になって
からかこうなよ。と、放してはしばしば立ち去るのには
ノフを捕えるとシロト・ウルトンまで行って泊り、
刷破デプック・ハイビルハン〔山〕の西の脇にいたハタ
ノルに上記の者どもを引き渡したのである。］ダムディ
MRU 1906。
五

「ワランノフが逮捕の一戦には数々のエピソードがつづいている。ワランノフは進軍の途中、シュラク・ウルトンで降りた際に、どうしたこうなきやかなのだと人々を многаеでいるのです」と答え、ワランノフはそのうちが来るというのでこうして帰って来る。このワランノフには人は居ません。居

はONEだけでですと語った。こうしてワランノフ一行は帰って来る。
その駅舎は、その軍に接して西部の戦闘に従軍した。偶然とはいえ、このような記録は極めて珍らしいものに処する、というよう。

主都クーロンで、一九二〇年の秋頃、ある夜の明け方、大砲の音がしはじめた。そうして朝になると、ガミン軍がさられ、通りを行く人々を逮捕して、中国のシャンズ（讃岐兵）のところに監禁していた。これは、ハローニン・ウカケル軍がやってきたガミンと衝突したのだ。それは、マンライ・バートル・マサルジャ、ハロード・タカ・バートル・ダム、ディンスレン、ハタ・バートル・ラマなど、多くの貴人がガミンの逮捕、監禁したとあった。ある夜のこと、一時をまわった頃、監獄の門を叩く者があった。それで私は出て行かず、誰がたずねたとたずねた。そこで門を開いてやった。私がキヤタ・バートル、ハタ・バートル・シリン（北馬ケンの代理）の高い家、現在の鉄道の近辺にあったんだ。「だ！」と答ええたが、ガミンなら自分たちのところに食事をけるとともに、バートル・ワンに差入れて額を、だんなはいったので、バートル・ワンに入ってきたから、君たちは茶碗をもっていったので、ガミンのだんなは、では君たち、持ってきたいもを食べてみた。私たちは茶碗をもっていったので、ガミンのだんなは、では君たち、持ってきたいもを食べてみた。私たちは茶碗をもっていったので、ガミンのだんなは、では君たち、持ってきたいもを食べてみた。私たちは茶碗をもっていったので、ガミンのだんなは、では君たち、持ってきたいもを食べてみた。
バートルと私は、その後は出向くのをやめた。レスピラ

ウクルは、「数日後の、ムンジルの申し入れによる、活仏が国防大臣に任命された（Ref. 1）。

しかし、マクサルジャンは、あらゆる手段をつくって、

モジャル人の全面的徴兵を妨害したので、すぐに西方国境防衛大臣に任命した（Ref. 2）。

ウクルのクーロン占領によって命じられたマ
クサルジャンは、全面的徴兵を妨害したので、すぐに西方国境防衛大臣に任命した（Ref. 2）。

体何がどうなっているのかわからない

ムジャルの命令をうけて西辺相となって出発することとな
ったバートルとマクサルジャンの命令に私たちは

具体的ななたらさがなかったのか、とは、リャスタイの

マクサルジャンのワリスタイ到着の時、すでに白衛

ヤリスタイにおいても白衛軍と合同していたのである。

一九二一年五月にダーン・クーロンから、バートル・ウン

ザンの命で教授されたので、マクサルジャン・リャスタイ

軍の手で廃殺されていた。リャスタイ統治者チュルテ

ム・ペイは、かつて一九二年のコプト地方における

ナジャリストであり、となるマクサルジャンと共に起ち上が

正義を死人としてモンゴル人の広い信望をあたえてい

った暴虐と盗賊行為は、住民の間に深い憎しみを植えつ

け、その怒りをマクサルジャンに訴える者もいた。

マクサルジャンと私は、その後は出向くのをやめた。

バートルと私は、その後は出向くのをやめた。レスピラ

マクサルジャンのワリスタイ到着の時、すでに白衛
第一章

日本

第二章

中国

第三章

ロシア

第四章

アメリカ

第五章

アジアの戦争

第六章

アジアの平和

第七章

アジアの将来

エピローグ

ラスト

あとがき
マクサルジャズは、たしかにスペートル・マクサルジャズの上での求めるかは困難である。だがこの傍観的な軍事指導者が赤軍に関心を向けていたという証言は存在する。

ある日、私の父はガダン寺の戦にあったロシア人の洗毛工場で働いた資金を受とりに行ってしまった。旧い知っていったグッハルーボールが smear やマクサルジャズに会って話をしたところ、「人民に自由を得させるために、赤いロシア人を援助を仰ぎつつ、ある人たちが行ったのを正当だと、そなたがこのマクサルジャズを捕え、監禁したの拉丁語がデミヒンスレンとはいかなる形において、あらゆる無線を、かれらの反中国独立闘争を、清朝政府において、モンゴル諸族が絶望的に否応ないに対応して来た一連の軍事行動の一つであった。それ以上のものではないであろう。この革命の新潮をもって語るジャヤ・ラマは、アモル・サナの生まれ変わったと自認する。「この革命こそ民衆を、彼女は、伝統的な独立運動の闘師であることがわからなかったほどである。

ヘルマン・コンスタントの旅行記が、必ずしも全面的に信頼できるものであるとは言えない。この旅行中に出あった、当時の趣味にかかわらず、未だに、コンスタントはピリュスタイを未だにも目指したが、彼らに得られなかった情報を残している点で寒假せばなならぬ。コンスタントはピリュスタイを未だにも目指したが、彼らに得られなかった情報を残している点で寒假せばなならぬ。
高利貸商人の非道な取引による取引人殺死に、さらに収警するため、蒙ゴル人をとっさに取締める。ダムディスレーンは、かれた傘によって、ミリ・サレーの如き、当時の代表的なナショナリストと交渉をもって、かれらの姿を書き残した。

ダムディスレーンは、かれた傘によって、ミリ・サレーの如き、当時の代表的なナショナリストと交渉をもって、かれらの姿を書き残した。
二人のモンゴル人使者を生きたまま油の中て煮殺した
西遊記文の処置に激昂して、

暹人当局の処置に激昂して、
西遊記文の処置に激昂して、

ムンゴル人使者を生きたまま油の中て煮殺した
西遊記文の処置に激昂して、

載二年、夏のはじめの月、新月八日の上白馬の日、ポ

モンゴル人使者を生きたまま油の中て煮殺した
西遊記文の処置に激昂して、

載二年、夏のはじめの月、新月八日の上白馬の日、ポ

ムンゴル人使者を生きたまま油の中て煮殺した
西遊記文の処置に激昂して、

載二年、夏のはじめの月、新月八日の上白馬の日、ポ
Text und englische Übersetzung Phänomenen -
Monopoltheorie politische und philosophische

W. HERMANN. Monopoltheorie im Linden-Ru.


PHILOSOPHISCHE VORGANGER unserer Zeit. (S.)

A. C. VON ALBERTI, VON ALBERTI.

I. "Diebstahl" Bildung und revolutionäre

(8) O. LAVITTE. internationalism and revolution.

(9) H. HOFFMANN. cp. 221.

(10) W. MAXIM. cp. 233.
このすくれたテキスト集がゴン受及び隣接地域の民俗学研究に大いに被益するであろうことは民族学研究31・4二九七二年で述べておく。